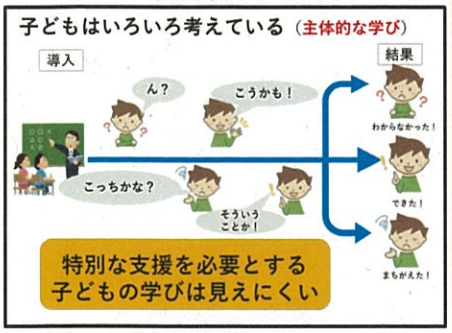
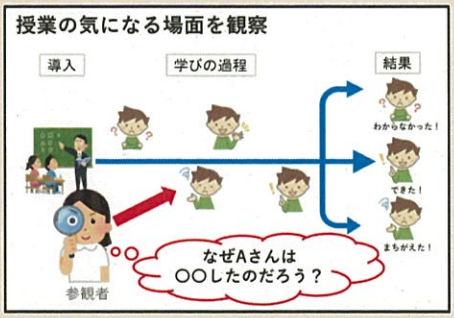
子供の姿から学び合う授業研究
～学ぼうとしている子供の学びの過程を観るために～

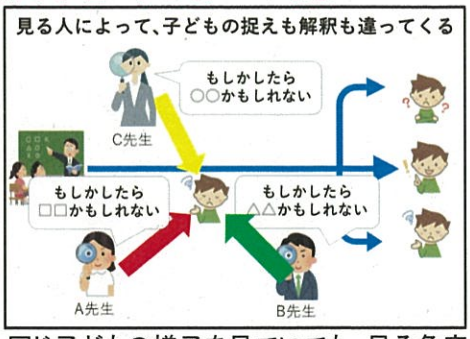
特徴（子どもの学びの過程を観る力を培うための教師の協同学習「学びあいの場」）



授業者は、自分が望んだようにできたかどうかの結果に注目してしまいがち
（授業者の視点で子どもを観察している）



授業者だけでは気付けない子どもの姿を参観者に見てもらう
（子どもの視点で観察しようする）



同じ子どもの様子を見ていても、見る角度やタイミングなどによって、子どもの見方は異なり、それを聴き合うことで、その時の子どもの思いや考えに近付く

方策

①どのように子どもを観るのか

気になる場面について2枚のラベルに書く

子どもの言動をそのまま描写する → 言動ラベル

（つぶやき、動き、視線、関わりなど）

「なぜそうしたのか」を子どもの視点で推察する → 解釈ラベル

（その時の子おもの思いや考えを推察）

ラベルを2枚に分ける意図

授業者は授業のねらいを達成することを念頭において子どもを観察するので，できたかどうかに関わる解釈を入れて観てしまいがちである。
解釈を入れずに事実だけに注目することによって初めて子どもの視点に立つことができる。そして「なぜ子供はそうしたのか」と考え始められる。

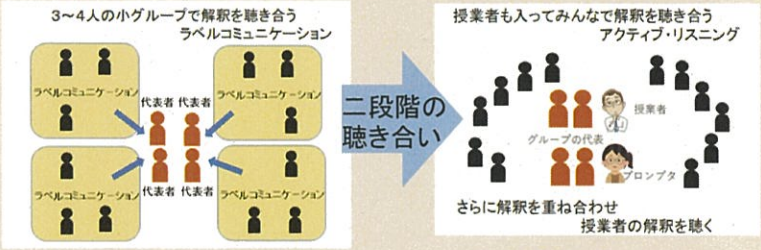
②事実を基に解釈を聴き合う

こういう見方があったんだ

A先生の解釈
B先生の解釈
C先生の解釈
→ 自分とは違う解釈に出会う → 子どもの見方の幅が広がる

↓

更に深い解釈に向かう → 子どもが何を考えていたのかをより深く考えられる



お互いの解釈に関心をもち、丁寧に聴き合うことがお互いを認め合うという同僚性を育む

目指す教師像

「学びあいの場」によって

教師は子どもの言動をよく観ようとする

子どもの表情、視線、つぶやき、動き、子ども同士の関わりなど

「学びあいの場」によって

教師は子どもの言動をもとに

「子どもは、なぜそうしたのだろうか」と，常に考える姿勢が身に付く

↓

子どもの主体的な学びを尊重

「学びあいの場」で培われた「子供の学びの過程を捉える」教師の資質は一人一人の子どもの主体的な学びを実現することにつながる

富山大学人間発達科学部附属特別支援学校